

第 25 号  
(5 月号)  
2015 年  
5 月 1 日

七里ヶ丘子ども若者支援研究所  
**それが社会参加だ!**

住所: 鎌倉市七里ヶ浜 2-31-12  
携 帯: 090-7212-4055  
Email: qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp  
編集長: 新舛秀浩  
発行責任者: 滝田衛

## 会員支援者へ御礼 <2014 年度研究所事業報告>

子ども若者の生きづらさを理解し交流しあう活動を始めて 2 年が経過しました。本研究所と応援団会議(会員定例会)は“子ども若者支援推進法(内閣府 2010 年)”を普及し子ども若者の地域環境づくり願い活動しています。ご支援に感謝します。

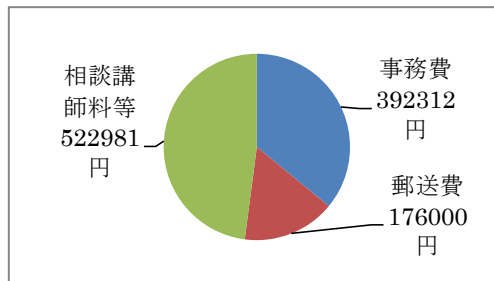
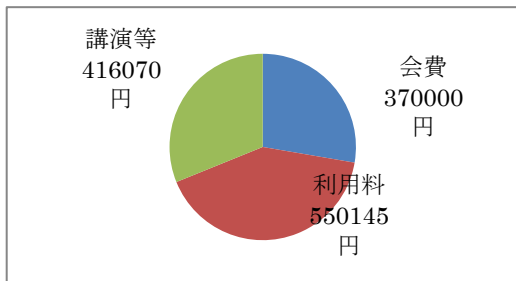
会員数は 74 人、相談利用 106 人、応援団会議 12 回、研修会・講演会 4 回、県市会議出席 12 回、講演会講師 11 回。会員・支援者の理解と協力で活動ができましたことに感謝を申し上げます。大きな成果は、若い世代の活躍です。小幡沙央里(元代表)・永野亜由美(副代表/HP & facebook 担当)・新舛秀浩(副代表/通信編集長)さん。会及び講演会等の運営、通信やネット情報配信を精力的に進めてくれました。

小幡さんは 4 月横須賀市議会選挙で当選、議員活動のスタート。応援ください。

**2014 年度寄付団体決定** ○たすき塾(学習支援、衣笠地区自治会内・青少年推進委員の活動) ○放課後等デイサービスあっぷっぷ(障害児通所施設、ヒューマンエデュカル) 昨年 9 月交流会に参加いただき、また会員より推薦を受けました。

2014 年研究所収入 1,336,215 円

2014 年研究所支出 1,091,293 円



残額 244,922 円から寄付 20 万円を送り 44,922 円を次年度へ繰り越します。(滝田)

### コラム風



5 月 3 日は 68 回目の憲法記念日です。今年は敗戦 70 年となる。ぼくは子ども若者の生き方に寄りそう中で、憲法が生きていない現実をみてきた。2 つ上げれば第 25 条生存権や 26 条教育権の不履行である。学校へ行かない不登校の子の教育権、働いていない若者の最低限度の生活保障である。自己責任、個人の問題として社会契約を反故にしているのである。

(元 GHQ の住友生命ビル) 憲法とは国民相互の約束であり、国民を孤立させない社会的契約なのである。最たる不幸が 9 条戦争放棄だ。戦力を持たないこの国は、いよいよ交戦権を是認する方向へ進む。改憲を唱える人は“時代の変化”を強調するが、施行当時は米ソ対立から朝鮮戦争時代。戦争放棄は日本の悲願であり、日本の軍国主義を世界から排除する視点も含め。

話を戻せば、子どもの「義務」教育を実現することが、学力保障。すべての若者が人間らしい生活を実現することが、少子化に向き合い納税を推進すること、と僕は考える。自己責任は憲法違反である。共生と平和の実現、憲法を日常生活に！と願う。写真は住友生命ビル、憲法を起草したベアテさん等の思いの詰まる場所だ。憲法制定経緯に惑わされず、頑なに。(滝田)

## 4月26日子ども若者応援団会議 「子育て、就労、応援団のご報告！」

当初4月19日でしたが諸般の都合により一週間後の26日になったことをお詫び致します。26日の応援団会議では計9名のご参加感謝です。近況報告の中では親子関係、子育て、中学校内での生徒の「子ども格差」によって給食費が払えない家庭の問題。子育ての地域格差、コミュニケーションスキル向上の「かるた」を紹介。若者2名は就労の悩みを吐露。



昨年度の収支報告と寄付団体の決定(1面詳細)。今年度の応援団は合議制にし事務局を置き担当は新舛秀浩です。よろしくお願ひ致します。また本年度、応援団定例会は月に一回、研修会を年二回、講演会等を年に一回行うことを決めました。8月には大交流会を行う予定です。詳細は決まり次第ご報告致します。次回応援団会議5月17日は是非ご参加ください。(新舛)

## 「職員室から見たもの」 山本陽子さん(会員)

退職して2年と3ヵ月、ボランティア活動と習い事に時間を費やしていた私が、昨年7月から非常勤で週20時間働くことになった。6月中旬電話があり、7月から勤務の慌たしさであった。久しぶりの中学校、非常勤でも職員室に机が与えられ、中学校の職員室を客観的に観察することができた。現場を離れて少ししか経っていないのに、なんと若い教員の増えたことか。



1日の授業が終わっても、部活・委員会活動・会議・研修等があり、私の勤務終了時間の16:35までに先生たちがゆったりと話しているのを見たことがない。若い経験の浅い教員が空き時間を利用して先輩教員に相談をしているところを見たことがあるが、十分な対応ができているとは思えない。『なんて、忙しいのだろう!!』がその場での実感だ。

(上記写真はイメージです)

最近起こった川崎の上村くんの事件、私は、周囲の大人はなんでアクションを起こさなかったのかと大いなる疑問を抱いていた。学校に来ていない、家庭訪問しても会えなかったら、クラスの生徒に「誰か情報知らない、先生心配なの!」と呼びかけたら応えてくれる生徒はいたはず。そこに強い思いがあったらと無念でならない。ただ、前述したように教員たちにゆとりがないのはどこの学校でも同じである。そして保護者の中にも…。その足りない部分をどうやって補っていったらいいのか、現代社会の切なる課題である。  
(それぞれの風はお休みします。)

### 【ご参加下さい】

応援団会議は横須賀市市民サポートセンター 午後2時～4時 会員の自由な集まりです。

5月研究所開設日程(駐車場有)相談時間10時～16時 土日訪問はご相談

4日(月)	祝日	18日(月)	相談
7日(木)	他事業	21日(木)	相談
11日(月)	相談	25日(月)	相談
14日(木)	相談	28日(木)	相談
17日(日)	応援団会議		

永野さんが運営管理するホームページ・facebookのアドレスです。ご覧ください。

- 七里が丘子ども若者支援研究所HP) <http://shichirigaoka-childsupport-lab.jimdo.com/>
- 子ども若者応援団HP) <http://kodomowakamono-ouendan.jimdo.com/>
- 子ども若者応援団 facebook) <https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan>

編集後記・山本さんに書いていただいたように、上村くんの事件、周囲の大人達がアクションを起こせるようなゆとりのある環境があればと思います…。残念でなりません。(新舛秀浩)